

鷹取山自然観察会会報

2017. 9. 8 NO. 17

鷹取山の野鳥調査について—2016 年 12 月～2017 年 5 月の調査報告—

鷹取山自然観察会では、鷹取山周辺の自然を把握するため、モニタリングサイト 1000 里地調査（モニ 1000 里地調査）注 1）にサイト登録して植物相、蝶類を行っています。野鳥調査については、モニ 1000 里地調査とは別に行っています。当会では、比較的観察しやすい冬から春の繁殖期までの時期に行っていて、2014 年、2015 年の結果は会報 8 号、13 号で報告してあります。今回は、2016 年 12 月～2017 年 5 月までの調査結果を報告します。

横須賀市教育情報センターの Web では、三浦半島で見られる野鳥として 112 種を掲載していて、内 50 種は

どは水辺の鳥であるため、60 種位が山や野原で見られることとなります。

野鳥は他の動物に比べて移動距離が大きく、夏鳥、冬鳥など季節によって移動を繰り返しているため、地域の環境を把握するためには継続的な調査が必要だと思えます。

また、野鳥は山林、草原、田畑、水辺などですみ分けを行っている。鷹取山でよく見られるシジュウカラ、ヤマガラなどは山林を好み、ホオジロ、ツグミなどは草原を好むようです。モニ 1000 里地調査では、表 1 のとおり生息場所ごとに野鳥の指標種 52 種を取り上げています。

表 1：モニタリングサイト 1000 里地調査の指標種 52 種とその渡り・ハビタットタイプ区分

渡りタイプ	ハビタットタイプ	種名
留鳥 (22 種)	森林 (7)	アオゲラ、ウグイス、カケス、キセキレイ、コゲラ、エナガ、ヤマガラ
	草地、畑地 (4)	ムクドリ、ハシボソガラス、ヒバリ、カワラヒワ
	水田、湿原 (6)	コサギ、セッカ、ダイサギ、バン、アオサギ、ケリ
	複合 (5)	オオタカ、モズ、ノスリ、ホオジロ、キジ
漂鳥 (4 種)	森林 (3)	ウソ、ルリビタキ、アオジ
	草地、畑地 (1)	ニューナイスズメ
国外移動 (夏鳥、15 種)	森林 (7)	ヤブサメ、ホトトギス、サンショウクイ、オオルリ、センダイムシクイ、キビタキ、コサメビタキ
	草地、畑地 (2)	コムクドリ、ノビタキ
	水田、湿原 (3)	アマサギ、チュウサギ、オオヨシキリ
	複合 (3)	カッコウ、ツバメ、サシバ
国外移動 (冬鳥、11 種)	森林 (2)	ミヤマホオジロ、マヒワ
	草地、畑地 (3)	ジョウビタキ、シメ、ツグミ
	水田、湿原 (2)	タゲリ、タシギ
	複合 (4)	カシラダカ、アトリ、シロハラ、ベニマシコ

注 キビタキなどの網掛け文字の種は鷹取山で確認した種である。

注 1) モニタリングサイト 1000 里地調査（モニ 1000 里地調査）

モニ 1000 里地調査は、環境省生物多様性センターが中心となって全国的な生態系の変化を把握することを目的に行っています。調査は、市民が調査項目（植物相、野鳥、蝶類、カエル類、ホタル、ほ乳類など 9 項目）を選択してボランテ

イアで調査を実施することにより、全国的な生態系の変化を把握しています。現在全国 180 ヶ所の一般サイトが登録されていて、神奈川県では 21 か所、横須賀市は 3 か所で 5 年間を一区切りとして調査を行っている。

1. 調査方法

調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト 1000 里地調査マニュアル」に準じて行いました。調査ルートは植生の違う 4 区間に分け調査しました。調査頻度は月 2 回第 1、3 金曜日に、調査ルートを歩きながら、目撃、鳴き声（地鳴き、さえずり）で種を判別し記録しました。

2. 調査結果

今回は、月 2 回計 10 回の調査を行いました。調査日によっては気象条件などにより、出現する数に違いがありました。2014、2015 年と 2016 年の調査結果を表 2 に示しています。2016 年は全期間を通して 29 種が記録できました。

調査期間を通して数が多い鳥はスズメ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ウグイス、メジロ、トビ、ウソ、シジュウカラ、ムクドリ、の順であり、これらはウソを除き留鳥でした。

2014 年、2015 年との比較では、シメ、イワツバメが 2016 年に初めて観察できました。また、ウソ、アオジ、ホオジロは 2015 年と比較して観察数が多かった。一方、2015 年に観察したオオタカ、アカハラ、キビタキ、モズは 2016 年には観察できなかった。

2016 年の調査では 2015 年に引き続きノスリを観測しました。神武寺、池子にはタカ類の営巣も確認されていてこちらに飛んできたものと思われます。

「表 2 2014、2015 年と 2016 年の調査結果」は次ページ

3. その他

今年からは、月 1 回から月 2 回の調査に変更し、12 月から翌年 5 月まで調査を行いました。冬の間は多くの鳥はさえずりよりも地鳴きが多く、判別がしづらいことが多かった。たとえば、ウグイスのさえずりは「ホーホケキョ」と誰でもが知っていますが、冬の地鳴きは「ヂャツ、ヂャツ」と鳴いています。シジュウカラのさえずりは「ツピ、ツピ、ツピ」ですが、地鳴きは「ジュク、ジュク」などと鳴きます。見逃した野鳥もあったため観察された 29 種よりも多く生息しているものと思われます。

我々自然観察会では、鷹取山周辺について今後も継続的に調査を行っていく予定です。アマチュアの調査であり、種の同定に間違いがあるかもしれませんが、継続することで精度が上がっていくと思っています。また、当会の野鳥調査では、繁殖に影響しないようマナーを守り調査を行っています。2017 年は 12 月から野鳥調査を再開する予定です。

2016 年調査に参加した人（鷹取山自然観察会）

本多久男、中村紀雄、三科清高、高橋和子、島村健二、北村悦子、板垣加代子、郡司久、金子龍次、小池順子、竹之下香苗、高田静子、寺島成晃、寺島倫子

（順不同、敬称略）

巣箱の掛け替え作業（予定）

鷹取山の樹林内ではシジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ、エナガ、ジョウビタキ、ウソ、ウグイスなどがごく普通に観察されます。シジュウカラ、ヤマガラは巣箱をよく利用してくれる野鳥でもあり、当会では 2013 年から野鳥の保護を目的に巣箱掛けを行ってきました。

2013 年に 8 個、平成 2014 年に 9 個を子ども達とイベントを開催して鷹取山公園にかけてきました。現在 17 個の巣箱が掛かっています。

今年は昨年度と同様に今まで設置した巣箱の掃除と利用状況を調べます。巣箱を掛ける時期は 11 月～3 月といわれ、出来るだけ早い時期に掛けてしまうのが良いということで昨年と同様に次の日程で行います。ぜひご参加ください。



- ① 予定日 11 月 24 日（金曜日）9 時 30 分 雨天の場合は 29 日（水曜日）に延期します。
- ② 集合場所 鷹取山公園あずまや集合 12 時解散
- ③ 用意するもの 軍手、作業できる服装 脚立などはこちらで用意します。

表 2 2014、2015 年と 2016 年の調査結果

	科 名	種名	2014 年	2015 年	2016 年
1	キジ目キジ科	コジュケイ	8(4/6)	8(4/6)	10(6/10)
2	キツツキ目 キツツキ科	アオゲラ	0	1(1/6)	2(2/10)
3		アカゲラ?	0	1(1/6)	0
4		コゲラ	9(5/6)	15(6/6)	21(8/10)
5	スズメ目アトリ科	アカウソ	1(1/6)	0	0
6		ウソ	10(2/6)	2(1/6)	28(4/10)
7		シメ	0	0	5(2/10)
8		カワラヒワ	2(1/6)	0	5(3/10)
9	スズメ目ウグイス科	ウグイス	13(5/6)	29(5/6)	31(9/10)
10	スズメ目エナガ科	エナガ	3(1/6)	14(3/6)	11(4/10)
11	スズメ目カラス科	ハシブトガラス	15(5/6)	10(5/6)	34(8/10)
12		ハシボソガラス	3(1/6)	8(2/6)	5(2/10)
13	スズメ目 シジュウカラ科	シジュウカラ	14(6/6)	18(6/6)	25(7/10)
14		ヤマガラ	1(1/6)	4(1/6)	8(3/10)
15	スズメ目スズメ科	スズメ	41(6/6)	34(6/6)	87(10/10)
16	スズメ目セキレイ科	ハクセキレイ	0	4(2/6)	6(4/10)
17	スズメ目ツバメ科	ツバメ	0	1(1/6)	6(2/10)
18		イワツバメ	0	0	3(1/10)
19	スズメ目ヒヨドリ科	ヒヨドリ	36(6/6)	66(6/6)	74(10/10)
20	スズメ目ホオジロ科	アオジ	10(4/6)	2(2/6)	17(5/10)
21		ホオジロ	2(2/6)	1(1/6)	15(7/10)
22	スズメ目ムクドリ科	ムクドリ	8(3/6)	0	22(5/10)
24	スズメ目メジロ科	メジロ	20(5/6)	42(5/6)	31(8/10)
25	スズメ目チメドリ科	ガビチョウ	1(1/6)	7(3/6)	6(4/10)
26	スズメ目ツグミ科	アカハラ	0	2(2/6)	0
27		イソヒヨドリ	0	1(1/6)	0
28		シロハラ	3(3/6)	0	2(2/10)
29		ツグミ	3(3/6)	0	4(2/10)
30		大型ツグミ類	0	2(2/6)	1(1/10)
31		キビタキ	0	1(1/6)	0
32	スズメ目ヒタキ科	ジョウビタキ	1(1/6)	1(1/6)	3(2/10)
33	スズメ目モズ科	モズ	1(1/6)	3(2/6)	0
34	スズメ目レンジャク科	ヒレンジャク	13(1/6)	0	0
35	タカ目タカ科	オオタカ	0	1(1/6)	0
36		トビ	5(3/6)	8(4/6)	29(10/10)
37		ノスリ	0	1(1/6)	3(2/10)
38	ハト目ハト科	キジバト	7(3/6)	4(3/6)	10(6/10)
39		ドバト	3(2/6)	2(2/6)	7(1/10)
		羽数	233	289	512

注 カッコ内数値 (n/10) は、種の確認回数/観察回数

鷹取小学校の自然観察会の支援について

鷹取山の山裾にある地元の鷹取小学校から自然観察の依頼があり、実施したので報告します。今年度鷹取小学校3学年では、総合的学習の時間で「鷹取の自然や歴史を探ろう」をテーマとして活動しています。このカリキュラムの中で学校側から当会に対して鷹取山の自然について支援の要請がありました。学校では裏山といえる場

にある鷹取山の自然をもっと知ってもらい、学習活動を通して自分たちの住む地域に誇りと愛着を感じられる子どもを育成していきたいとの思いがあるようです。

また、「鷹取山の自然を愛し、守ろうとしている方々がいる」こと自体が子どもにとっては新たな気づきであり、地域への愛着につながると考えているとのことでした。

た。当日の準備のため、小学校において観察コース、観察ポイント、班編成など先生と相談して決定しました。

観察会は、当初6月28日の予定でしたが、梅雨前線の影響で7月5日水曜日5・6校時[13:20~14:55]に延期して実施しました。3学年52名が参加しました。人数が多いため会員13人が参加して、6班編成で1班に2名で案内しました。

観察コースは1クラス3班は水道タンクの階段を上り、摩崖仏から山頂広場～桜並木を経て小学校までです。2クラス3班は反対のコースを回りました。



＜観察方法＞

- ①「鷹取山の自然観察ガイド」を児童に配布して、解説しました。
- ②自然観察ビンゴ表を作成して、発見したものに丸印をつけて観察チェックを行いました。
- ③クサギ、ヤブニッケイ、クスノキ、ヤマコウバシ、カラスザンショウなどいくつかの匂いのある葉っぱを実際に感じてもらいました。
- ④山頂広場から南側の尾根道にニガキがあるのでニガキの葉を噛んでもらい苦い葉を味わってもらいました。
- ⑤セイタカアワダチソウ、トキワツユクサなどの帰化植物の説明をしました。



観察会を終えて会員の感想を聞きましたが次のとおりでした。

＜会員の感想＞

ビンゴ表は、子ども達の興味や関心を喚起し持続させるのに、大いに役だったと思いました。項目も3年生に合っていました。子ども達もゲーム感覚ながら目的を持って積極的に見つけようと意気込み、見付けた時には大喜びしていました。

バッタを怖がっていた子が、怖がらなくなって両手でそっと捕まえられる様になった様子を見ていました。

自然は、大切にしないてはいけなんでしょうが、その考えに至る前に、いろいろ五感を使ってその対象物と関わりよく観察し、知る事が大事だと思います。好きになったら傷めないし、大事にしようと思うからです。知識や理屈より、体験が先です。体験を通して関心を持つようになり、興味を深くしていく様になり、もっと詳しく知りたい！と知識に繋がっていくといいなあと思います。しかし、あの鷹取山に子ども達だけで行くのは、心配です。危険がたくさんあるからです。出来たら親御さん達にも鷹取山の自然知って頂き、散歩を兼ねて子ども達と一緒に行って頂けたら安心ですが。

それと、山に入る時には、暑くても長袖・長ズボンを身に着けて行く様にさせたいですね。（永田）

班編成が、5名くらいの方が説明に集中できたのでは？と感じました。

蚊対策のためにも、できるだけ長袖、長ズボンが良かったですね。途中で蚊に刺されたことで、かなり騒いでいましたので。（原）

生徒たちが素直にビックリしたり感動しているのがとても印象的でした、改めて自然のもつ不思議や偉大さに気付かされました。絶壁に育つイワタバコ、鬼も縛れるオニシバリ、ニガキの驚き、男の子達はヒメコウゾを食べたい食べたいと言うので取ってあげるとそんなに美味しくないはずなのに美味しい、甘いと積極的で女の子はいらないと違いがはっきりしてしまいました。植物は人間が吸っている酸素を作ってくれているんだと話してあげると感心して聞いていました。オトシブミは巻き文

に興味を持つより揺り籠なんだと大人が気づかない所を発見している様でした。

同じ観察なら花の多い春を薦めたい。(村上)

植物保護のための柵づくり

会報 16 号で「自然観察の里山づくりのための鷹取山公園等の利用について」報告しましたが、当会では、鷹取山公園等の貴重な植物相の保護を目的に柵づくりを行いました。

鷹取山公園の岩場にはケイワタバコの群落をはじめヤマユリ、センボンヤリなど貴重な植物相が多くみられます。この辺りでは定期的に草刈りが行われていて、しばしば貴重な草花が刈り取られたり、盗掘の恐れなどもあります。このため、保護する場所に柵とロープにより草刈りができないよう管理区域としました。

6月23日金曜日会員12人ほどにより10時から2時間で作業を行いました。



最初に公園内のマダケを10本程度伐採し、2m程の長さに切り杭と

して利用しました。伐採に当たっては横須賀市公園管理課の了解を頂きました。次にケイワタバコの岩場周辺を柵で囲い、立ち入りできないよう写真のようにロープを張りました。最後に「守ろう私たちの自然、ここは植物群を保護しています。野草、樹木の刈込は行わないよう

お願いします。鷹取山自然観察会、横須賀市公園管理課」の看板を掲示しました。

今後、更に保全区域を広げ、貴重な植物相の保全をしたいと考えています。



鷹取山公園等では昆虫等の小動物も多く、そのためのビオトープづくりも検討しています。具体的にはカブトムシなどの幼虫が生息できる落ち葉のビオトープ作り、野鳥の好きな植物相の植栽などができればよいと考えています。



セミの抜け殻調査について—2017 年調査報告

セミは夏の風物詩で、鷹取山周辺では7月初旬からニイニゼミが鳴き始め、梅雨が明ける頃にはアブラゼミ、ミンミンゼミが大きな鳴き声で鳴いています。セミの生活史は夏に受精して雌は枯れ木に卵を産み付けます。卵から孵った幼虫は地中で脱皮を繰り返し大きくなっていきます。アブラゼミは5年ほど地中で過ごし、最終令の幼虫は、生息場所からあまり移動せずに夏の夜地上に出てきて成虫となり1週間から1か月程交尾の相手を見つけるため雄は大きな鳴き声を出すことになります。セミは樹林性の昆虫であり、セミの抜け殻調査は全国的に行われていてその結果は自然環境のパロメーターとなっています。2017年も昨年に引き続き鷹取山周辺でセミの抜け殻調査を行ったので報告します。

調査方法：7月28日と8月25日の2回、鷹取山の観察路を浜見台～鷹取山公園まで歩きながら木や草に付いている抜け殻を採取して調べました(調査区間図参照)。種の同定は会報13号(7頁)の方法により確認しました。

調査結果：調査結果は表のとおりでした。7月の1回目の調査では、ニイニゼミが83%でした。一方、8月の2回目の調査ではニイニゼミは激減し、アブラゼミが55%、ミンミンゼミが34%となり、また、ツクツクボウシが採取されるようになりました。ヒグラシは、E地区にある杉林の周辺のみで、7月の方が多く採取されました。この違いは、セミの種類による生活史の違いが反映された結果であると考えられます(生活史比較表参照)。また、抜け殻は採取されなくてもクマゼミの鳴

き声は聞こえますので、数年経てば、鷹取山でもクマゼミが羽化し、抜け殻が見られるようになるかもしれません。昨年の調査結果は、今年の2回目の調査結果と似ています。今年の調査結果全体を見ると、鷹取山のセミは、7月はニイニゼミ、8月はアブラゼミとミンミンゼミが優占種となっています。

その他：全国的には「セミの抜け殻しらべ市民ネット」や日本自然保護協会などで調査が行われています。市民ネットなどの調査では調査範囲を決めて毎年3

回程度継続的に続けることとなっています。鷹取山でも継続的に調査ができればセミの変化がわかると思っています。クマゼミは西日本でしか確認できなかったものが、近年鷹取山及びその周辺でも普通に鳴き声が聞こえます。セミは幼虫期間が長いため、抜け殻調査には、複数年に及ぶ環境の変化が反映されると考えられます。

2017年調査に参加した人（鷹取山自然観察会会員）

本多久男、市川薫、原秀子、三科清高

（順不同、敬称略）

調査区間図



セミの抜け殻調査結果（2016年、2017年 鷹取山で鳴き声が聞こえる6種）

種類 調査区間→	20160816	20170728					20170825					2017計				
	計(%)	A	D	E	F	計	A	D	E	F	計	A	D	E	F	計(%)
アブラゼミ	51(59.7)	4			2	6	22	26	3	6	57	26	26	3	8	63(34.8)
ミンミンゼミ	26(28.9)		1			1	21	12		2	35	21	13		2	36(19.9)
ニイニゼミ	4(4.4)	2	22	11	30	65		1			1	2	23	11	30	66(36.5)
ツクツクボウシ	8(8.9)						2	1		5	8	2	1		5	8(4.4)
ヒグラシ	1(1.1)		6			6		2			2		8			8(4.4)
クマゼミ																
計	90(100)	6	29	11	32	78	45	42	3	13	103	51	71	14	45	181(100)

セミの生活史比較表（鷹取山で鳴き声が聞こえる6種）

種類	孵化型・時期	成虫出現時期	幼虫期間の目安	好きな木
アブラゼミ	翌年孵化型・梅雨時	7月中旬～9月下旬	4～5年(主に5年)	サクラ、ケヤキなど
ミンミンゼミ	翌年孵化型・梅雨時	7月中旬～10月上旬	2～4年(主に3年)	ケヤキ、サクラ
ニイニゼミ	同年孵化型・秋雨時	6月下旬～9月中旬	4～5年(主に4年)	サクラ、ケヤキなど
ツクツクボウシ	翌年孵化型・梅雨時	7月下旬～10月上旬	1～2年(主に2年)	サクラ、ケヤキなど
ヒグラシ	同年孵化型・秋雨時	7月上旬～9月上旬	3～4年(主に4年)	スギ、ヒノキ
クマゼミ	翌年孵化型・梅雨時	7月中旬～9月下旬	4～5年(主に5年)	センダン、ケヤキなど

※ 幼虫期間については不明な点が多いため、目安とした。

自治会向け観察会の実施について（報告）

地元住民の方に、鷹取山の自然をもっと知っていただくことを目的として、湘南鷹取2丁目、浜見台1丁目住民を対象に2回観察会を実施しましたので報告します。

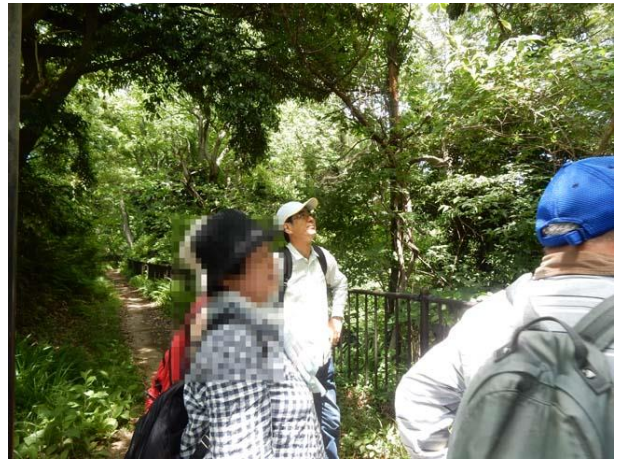


(1) 浜見台1丁目地区観察会

浜見台地域では自治会掲示板5ヶ所及びブスカイハイツ、サンジュエルマンションの2ヶ所にポスターを掲示して募集しました。浜見台1丁目の自治会会員は260世帯と多いが、自然観察会に対する関心の低さから参加の申し込みが少なかった。また、小学校の運動会と重なったことから若い世代の参加者が少なく残念であった。

参加者には保険を掛けたため100円を徴収した。資料として鷹取山自然観察ガイドを配布した。実施状況は次の通りであった。

5月27日土曜日 10時～12時 参加者 4名



(2) 湘南鷹取2丁目地区観察会

湘南鷹取2丁目地域では自治会掲示板と自治会の回覧により周知して募集を行いました。

参加者には浜見台地域と同様に保険を掛け100円を徴収した。資料として鷹取山自然観察ガイドを配布した。実施状況は次の通りであった。

6月24日土曜日 10時～12時 参加者 11名

参加者からは、「観察会の実施は良かった」、「定期的な自然観察会に参加したい」、「鷹取山の自然の豊かさを実感した」、「知らない植物の名前がわかった」などご意見を頂いた。

今回、初めて住民向けに観察会を行いました。住民の自然観察会に対する認識は思ったほど高くはなく、参加者が少なくて残念であった。今後の課題としては、ポスター、回覧により周知しましたが、広報の方法について更に検討が必要と感じました。

初秋に咲くつる植物

つる植物は、必要な光合成を得るために他の樹木に巻きつき、より環境条件の良いところを確保しようとします。巻きひげだったり、棘、吸盤などで他の植物に絡みつきます。成長も早く、他の植物の上を覆い広い範囲を占有することもできます。

鷹取山には初秋に花を見ることができるつる植物がたくさんあります。

ヤマノイモの仲間も花を咲かせます。

ヒメドコロは、葉が互生し、基部は心形で張り出した部分が角ばります。オニドコロに似ていますがそれより細く、葉柄の基部に1対の小突起があります。

オニドコロは、ヤマノイモの仲間では一番多く見られ、葉は互生し、ヒメドコロより大型です。雄花序は直

立し、雌花序は垂れ下がります。また葉柄基部に突起はありません。

ヤマノイモは、葉が対生し細長い三角状で先が尖ります。いわゆる自然薯で、根茎が細長くて地中深くのび、1mぐらいになりますが、食べられるようになるには4～5年かかります。

ヤマノイモの仲間は雌雄異株でヒメドコロ、オニドコロの花は、淡い黄緑色を帯びていますが、ヤマノイモの花は白色で雄花序は直立し、ムカゴがつきます。ヒメドコロ、オニドコロにはムカゴはつきません。秋にヤマノイモのムカゴを見つけ、むかごご飯にしようと摘むのも山歩きの一楽しみかもしれません。

あちこちで目にするクズは秋の七草の一つですが、厄介者とされています。

大きな葉で盛んに繁殖するので、夏のころからあつという間に日当たりの良いところはクズで覆われてしまいます。つるを切っても、つるは地面に触れるとそこから根を出し、別株として成長していきます。

クズはマメ科の植物で枝豆が茶色の毛だらけになったような豆果をつけますが、これが食用になるかはわかりません。

葉は3小葉で葉の裏には白毛が密生しますが、個体差があります。茎は長く伸び、太くなると木質化してきて、褐色の開出毛が密生します。塊根はデンプンの葛粉が取れることで知られています。このでんぷんをため込む性質があるので、冬でもその栄養分で越冬します。

昔は、クズのツルを畑作業に活用するので、定期的に刈り取られていたのですが、いまはそれもなく、里山はクズの開放地帯になっています。

花は通常赤紫色でマメ科の花の形ですが、立ち上がった穂状花序になり、華やかです。花自体は芳香を發しますが、栄養価の多い植物なので虫の食草として好まれ、ゾウムシ、カメムシなどが付き、クズの繁茂しているところに近づくとき嫌なにおいがします。

飼料としてクズを導入したアメリカ合衆国でも広がりすぎて、有害植物に指定されています。

アオツツラフジも目立ちませんが、この時季花を咲かせます。ツツラフジ科のつる植物で葉は互生し、全縁で広卵形ですが変異が多く3裂することもあり、両面に毛があります。雌雄異株で花は白色、萼片のほうが花弁より長いです。

粉を吹いたような青い実をつけ、種子はアンモナイトの形をしています。

よく似たオオツツラフジは、つるも太く葉も大型ですが、葉の形は変異が多く、見分けるのが難しいです。鷹取山では今のところ確認されていません。オオツツラフジの葉は無毛で、茎は褐色の短毛がありますが、取れてしまうこともあります。

アマチャヅルはウリ科で、細い茎で葉は対生し、小葉は5前後の複葉で長い葉柄があります。葉表に毛を散生し、毛の基部が濃緑色で少し盛り上がり点々と見えます。葉縁や葉裏の脈上にも毛があります。

雌雄異株で、花は淡黄緑色で5裂し、先が尖ります。8mm程度の黒い実をつけ、実には環状の模様があります。

葉を噛むと甘茶のような甘味があるといわれていますが、確かめたことはありません。

同じくウリ科のスズメウリはやや湿り気のあるところに生えます。葉は三角状卵心形で縁に浅い鋸歯があります。雌雄同株で約7mmの白い花を葉腋に単生します。花は目立ちません。晩秋、1cm程度の白い実が、他の植物に絡まりビーズのように連なっているとき気づくことが多いです。

ヤマノイモの仲間と同じくらい、目にするのはヘクソカズラです。

日当たりの良いところではあらゆるものに絡まり、勢力を拡大していますが、万葉集にも謳われている昔なじみの植物です。

アカネ科で、葉は広い卵形で基部は心形で表面には荒い毛が散生し、葉脈上には短い毛、裏面は脈上にやや長い毛が多いですが、環境によるのか変異が多く、花がないときはよく見ないと分らないことがあります。

花柄は2つに分かれ、さらに分岐して総状になり、1cmほどの花は白色で筒型、先端は5つに分かれます。花の内側は紅紫色で白い毛が密生しています。

実は黄褐色で5mm程度の大きさですが、光沢があり花の少ない冬には目立ちます。

花筒が通常の3倍ほどあり、葉が細長いのをツツナガイイトバナといい、葉の毛が多いのをビロードイトバナといいます。連続的でないと区別は難しいです。

また、葉に毛がなく光沢があるのは海岸型のハマサオトメカズラです。花冠の内側の赤紫色の模様が5裂した花冠の先まであるのをホシザキハマサオトメカズラといいます。海岸で見るヘクソカズラの仲間は、茎も葉もしっかりしているように思えます。

キンボウゲ科の3種類のつる植物は、鷹取山の秋を満喫しています。

日当たりのいい場所で白い花の群生があればセンニンソウが咲いていると、遠めにも分ります。

センニンソウはつる性半低木で、茎の基部は木質化しますが、つるを伸ばして他の植物に覆いかぶさっている茎は細く、草本のような感じです。

葉は奇数羽状複葉で小葉は5くらいで全縁です。十字状の白色の花弁に見えるのは萼片で雄しべがたくさんあります。

ボタンヅルは、葉がボタンに似ていることからきていますが、3出複葉で小葉の縁には鋸歯があります。

コボタンヅルは、葉が2回3出複葉で小葉の縁には粗い鋸歯があり、両面に毛があります。また茎は暗紫色を帯びます。

センニンソウ、ボタンヅル、コボタンヅルは花が良く似ていますが、よく見ると違いがあります。センニンソウの花は、花糸が十字状の萼より短いです。

ボタンヅルとコボタンヅルはほぼ同じ長さです。花色もセンニンソウの白色に対して、やや黄色味を帯びています。

いずれも羽毛のある瘦果をつけますが、センニンソウの瘦果にはまばらな毛があり、ボタンヅルの瘦果は短毛に覆われています。コボタンヅルはほとんど毛がありません。

鷹取山の初秋は、いろんなつる植物の花が見られます。もちろん秋も深まると実になり、様々な形態の実を見ることが出来ます。

花の時季に気づかず、実になって気づくこともありますが、植物の存在の主張が様々なのも面白いと思います。
(小池 順子)



ヒメドコロ



オニドコロ



ヤマノイモ



クズ



アオツツラフジ



アマチャヅル



スズメウリ



ヘクソカズラ



ホシザキハマサオトメカズラ



センニンソウ



ボタンヅル



コボタンヅル

松にまつわる思い出

この1,2年の間に、私の家の前の2軒と裏の2軒が相次いで建て替えられました。その4軒に共通することは、庭に樹木が1本もないことです。それまで繁っていた庭木を全て取り払った更地に家が建ち、砂利を敷いた庭になっています。私がマンションから戸建ての家に移るときは、緑の庭木に囲まれた生活にあこがれたからなのですが。庭木といえば、松、竹、梅を植えるものだと教えられていました。中古で買った我が家には、松竹梅

が植えられていました。中でも松は、人気があり多くの家に植えられています。

日本は松の国だといわれています。それは、海岸線の最先端には松が生えていて、高山の森林限界に松が生えているからです。国道134号線江ノ島を過ぎると、湘南海岸の防風林としての松林が続きます。2500メートルを超える高山に登ると、最後の森林がハイマツで、それを過ぎつと岩場になります。そんな厳しい環境でも生育できるのは、松属は自身の根に菌類の菌糸を侵入させた、特別な根である菌根を形成しているからです。松は

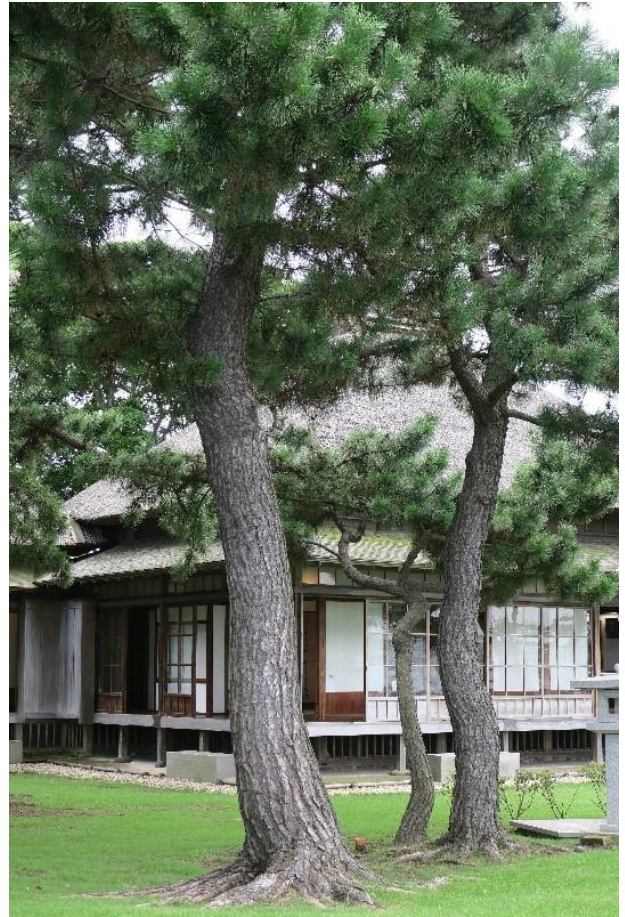
菌類を通じて土壌中の栄養分や水分の吸収を助けてもらい、逆に菌類に対しては光合成によって得られた同化産物を分け与えているという共生関係にあるにあるのです。



富士山の森林限界

鷹取山から眺めた野島の海岸には、樹齢百年以上の黒松の巨木が2,30本あります。伊藤博文の別邸があり、ここで明治憲法を想起したとのことですので、この松はその様子も眺めていたことになります。さて、肝心の鷹取山ですが、残念ながら松は生えていません。でも生えていたのです。鷹取団地ができる前のことです。横須賀と横浜の境、鷹取6丁目の公園あたりになるのでしょうか、松が1本生えていました。当時金沢区六浦町に住んでいた私は、瀬ヶ崎小学校（当時はまだありません）あたりから山道に入ります。しばらく登ると松が立っていて、そこで道が右と左に分かれます。右へ行くと朝比奈峠から鎌倉へ、左へ行くと鷹取山でした。「分かれの1本松」だと教わりました。

私が2,3年生の頃、近所の上級生に連れられて、鷹取山へしばしば遊びに行きました。春は芽を出したヤマユリを採り庭に植えました。夏は虫採り、クワガタが主でした。秋は芋掘り、ヤマノイモ（自然薯）を採りました。冬は百合の球根採り、甘く煮て食べました。ある時、虫採りに行こうとしたのですが、連れて行ってくれる上級生は誰もいません。仕方がなく一人で行くことにしました。分かれの1本松を通り、鷹取山の石切場まで行きました。まだその頃（昭和28,9年）、鷹取山で石を切り出していたように思います。でも一匹も採れない



伊藤別邸とクロマツ

ので、以前に行ったことがある、沢へ降りて行きました。ところが沢に降りると急に暗くなり、怖くなったので、戻ろうと登り出したのですが、いくら登ってもなかなか元の山道に出ません。ほとんど泣きながら懸命に登ってやっと山道に出ました。走るようにして分かれの1本松まで来て、安堵しました。その松も鷹取団地の造成のため消えてしまいました。もちろんあの迷い込んだ沢も。

我が家には2本の松があります。春には剪定に一日かかります。ほかの庭木も、剪定や害虫退治が大変です。それでも樹木は生活に安らぎを与え、思い出を育ててくれたりします。たとえ自宅の庭になくとも、樹木や草花などの植物を必要とする生活をしたいものです。

（市川 寛）

鷹取山自然観察会（ホームページを見て下さい）

HP：鷹取山自然観察会（旧 鷹取山の花と樹）

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>